

雇用の酪農経営について

奥 秋 吉 広 (酪農家 鹿追町北鹿追)

鹿追町で酪農業を営む奥秋氏は、研修滞在施設であり交流の拠点でもある同町の「ピュワモルトクラブハウス」の設立や運営に中心となって携わってきました。また、雇用の受入組織であるファーマーズスタッフ（浅野会長）の窓口でもあり、幅広く活躍されています。現在、同町にはたくさんの方が若者が集まり農業に従事しています。今回は雇用という観点から講演をして頂きました。



1. ピュアハウス（女性専用の研修滞在施設）の取り組み

本日の現地見学会でみていただいたピュアモルトクラブハウスは平成10年にオープンしました。鹿追の町を活気づけていける若者をつくりだしたい、そういう自分たちの願いではじめた家です。一緒に建ててもらったピュアハウスという研修棟（男子禁制）では、町外・道外の研修生を毎年10名ほど受け入れています。研修期間の1年間は宿泊費用がかからず、必要なのは光熱費と食費だけです。農家に通う交通手段である自動車は農家から貸し与えてもらっています。

現在まで86名の研修生を受け入れてきました。そのうち町内に残られた方は25名、町内で結婚された方が8名、近郊町村に嫁がれた方が6名ほどおられます。現在もOG会があって、集まっては色々な活動をしています。

あそこにピュアモルトがある...、女の子がい

る...、つまり”町内の青年が集まる”ということなのです。



ピュアハウス（女性専用の研修滞在施設）

2. 町内の賃貸住宅施設

1年の研修が終わって今度は農場に就職するとなると、住む場所がまた必要になります。街の中心に6戸の新築住宅（農業体験宿泊施設）を用意しており、家賃は10,500円です。さらに旧自衛隊官舎を改装したものが42戸あります。町に滞在する際は、しばらくの間は農協と行政が面倒をみてくれます。住宅は常に確保して頂いております。

3. ファーマーズスタッフによる雇用確保の取り組み

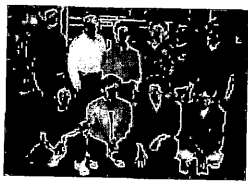
雇用という形態の中で鹿追町の農業はここ10年くらい飛躍的に伸びました。これはJA鹿追町やレディスサービスカンパニー、酪農ヘルパーなどの活躍によるところが大きいのですが、規模拡大ともなう労働力への依存は非常に大きくなっています。圃場管理などはコントラクターにまかされてもらえらるとしても、牛の管理やお産・牛の移動や給餌など、機械化されてもやはり手間がかかる部分が増えているのが現状です。そこで、労

働力を雇用により確保し、農業経営の合理化を目的として、平成13年8月に10人ほどの仲間です”ファーマーズスタッフ”を立ち上げました。この10人はピュアハウスの研修生の受け入れ経験がある酪農家です。

現在、鹿追町内には約70名の酪農従業員がいます。さらにピュアモルトに約10名、ヘルパーで約20名おりますので、全体で約100名の従業員を抱えているのが鹿追町酪農の現状です。

なぜ10名でやっているか？ということですが、やはり皆それぞれネットワークや色々なつき合いがあつて、どこどこに誰（人材）がいるんだけどどうだろう、といった情報が10名いれば様々な形で入ってきます。そのような情報から人材を確保するとともに、例えばスタッフの中で話し合いをして、この子は〇〇が好きだからこの酪農家がいんじゃないか？、この子は実家が酪農家で規模拡大を目指しているのだから〇〇している酪農家が良い

鹿 追 町
ファーマーズスタッフ



《事務局》
 北海道鹿追町北鹿追北10線4-7
 TEL : (01566) 7-2026
 E-mail : okuaki@thaia.ocn.ne.jp
 携帯 : 090-3775-0021



① 浅野牧場 (ファーマーズスタッフ会館)

総頭数：180頭

面積：52ha



② 奥秋牧場 (事務局)

総頭数：130頭

面積：42.5ha

労働契約書

雇用者 _____ と役員者 _____ との間に下記条件により労働契約を締結する。

1. 受雇する職種
(業務の区分により、業務の変更または職種以外の業務に従事する権利がある。)
2. 就業時間 年 時 分 年 時 分
(但し、季節天候または作業の都合により変更することがあり、業務の都合により早出遅退を命ずることがある。)
3. 休 日 1月期は1月もしくは2月を指定し、その日を指定する。但し、業務の都合により休日を指定する場合は、指定した休日を他の日に調整することがあり、休日の指定は業務に活用することもある。
4. 待遇時間 (標準時間) 年 時 分 年 時 分 分
(但し、業務の都合により休日を指定する場合は、指定した休日を他の日に調整することがあり、休日の指定は業務に活用することもある。)
5. 賃 金 月 給 円 手 当 円
(但し、業務の都合により休日を指定する場合は、指定した休日を他の日に調整することがあり、休日の指定は業務に活用することもある。)
6. 就業場所 毎社 毎上り先 (2) 月 日までに勤務する。但し、休日は(2)月 日とする。
(但し、休日の指定は業務に活用することもある。)
7. 雇用期間 自平成 年 月 日～至平成 年 月 日
8. 就業場所 就業先が変更される場合は、就業先が就業先内で就業する。但し、その日に就業先へ作業で出入りし就業先を就業する。
9. その他 上記の条件に基づき労働契約を締結し、その労働契約の内容及び就業規則等を締結する。

雇用者 _____ 役員者 _____ 平成 年 月 日

ファーマーズスタッフのパンフレットのの一部

ファーマーズスタッフでは、農家に住み込みで働く、ということはほとんどありません。町内の住宅から職場(酪農家)に通ってもらっています。街から離れているため牧場の周りに社宅を用意している酪農家も4~5軒あります。従業員用に1戸建ての住宅やアパートをもつ酪農家もあります。また、現在ファーマーズスタッフでは、酪農学園大学の実践酪農学コースの学生さんを受け入れています。

このような住環境をはじめ、最低の約束事をファーマーズスタッフの10名は揃えております。それは給料・待遇・労働時間・休日・最低賃金(15万円)などです。

いのは？、といったように、個々の状態や将来の構想にあわせて、スタッフの中で人材の振り分けをすることもできるのです。

4. 雇用に関する私の考え方~何のために雇用が必要なのか？

雇用に関して私が言いたいことが1つだけあります。経営規模を拡大するため... というのは私の考えなのですが、それが家内の考えなのか？、家族全員の考えなのか？ということが問題ではないかと思えます。なぜかというと、規模拡大によって”家内に一番しわ寄せがくる”からなのです。規模を拡大すると頭数は多くなる... 分娩も多く

なる... お父さんは畑に行ったっきり帰って来ない... というのが現状だと思います。

”好きで貰った女房をボロボロにしてどうするの...?”

あと何年かで子供が手から離れるのに今度は親の介護がはじまる... おしゃれする時間も無い... 化粧する暇も無い... 子供の学校行事にも行く暇が無い... というのが酪農家の奥さんの実態だと思います。立派な経営をして何百頭も搾乳している経営もたくさんありますが、皆ぎゅうぎゅう詰めの生活だと思います。それで本当に幸せなのか?、それが自分の人生なのか?、ということをもまず考えた方が良くと思います。夜8時9時になっても電気が点いている牛舎があります。奥さんも一緒に働いていると思います。それから作業を上がって旦那と晩御飯食べて... 洗濯物片付けて... 風呂入って寝る... といったら寝るのは何時になるのか?。そんなことをして酪農やるなら辞めたほうが良い... というのが僕の持論なのです。

そういった苦勞をある程度までやわらげたい、そのための雇用ではないかと思っています。

確かに(最低)15万円という給料は農家にとって安い金額ではないと思いますが、本当は15万円以上の値があるのです。心にゆとりをもって牛を見る時間があれば、発情もしたり、お産の事故も減る、共済の掛け金も減る、そういった中で生み出して行ける金額なのです。

5. ファームサービス(プチヘルパー)の取り組み

メンバーに200頭くらい搾乳している仲間がいるのですが、200頭の搾乳をヘルパーに完全に任せるのはかなり困難です。1日休むための引き継ぎに3時間も4時間もかかってしまいます。そこで、同級生や近所の人を含めて6人で”ファームサービス”というプチヘルパーを平成16年に立ち上げ

ました。

一般のヘルパーと違い、よほど何か事情がない限り、引継ぎ無しで出かけることができ、いつも来てくれる人なので安心感があります。将来的には一般のヘルパーを一切利用せずに月2回夫婦で休むことができ、従業員を長期旅行に行かせることも可能となります。

6. ファーマーズスタッフを運用するために法的に必要なこと

私はファーマーズスタッフとファームサービスの窓口をするために、職業紹介責任者講習を受講しています。職業安定法第36条に基づく委託募集の届出を労働局に受理していただかなければ、ファーマーズスタッフとファームサービスという名前を使って募集広告を出すことはできません。個人の牧場なら広告を出せるのですが、ファームサービスとして取り組むには、きちっと講習を受けることが必要となります。